

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 32人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30
(H28. 5現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話: 082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

霧ヶ谷湿原での調査活動と観察会

【報告者】西中国山地自然史研究会 和田 秀次

霧ヶ谷湿原自然再生協議会の構成員である認定NPO法人西中国山地自然史研究会は、4月29日(祝)にカスミサンショウウオの産卵調査を行いました。カスミサンショウウオは、湿地に産卵する小型のサンショウウオで、自然再生事業を行う前は、事業地の周辺には確認されていましたが、事業地には確認されていませんでした。再生された湿地にカスミサンショウウオが産卵するかどうかは、事業の効果を見極める上でとても大切です。参加者は14名でした。

調査は4班に分かれて行い、事業地と周辺の水の流れが少なく浅いみお筋で卵塊を探しました。その結果、事業地内で3卵塊、事業地の境界で29卵塊見つかりました。事業地内では、8年連続して卵塊が確認されており、再生された湿原がカスミサンショウウオの産卵場所となっていることがわかりました。



見つかったカスミサンショウウオの卵塊



7月3日の観察会のようす

また、西中国山地自然史研究会は、7月3日(日)に霧ヶ谷湿原のいきもの観察会を行いました。動物と植物の二人の講師の下、湿原や周辺の昆虫、植物、そしてそれらの関わりを観察することをねらいとしました。参加者は13名でした。

高原の自然館から湿原に向かう道端では、マメ科のクララにとまるトラマルハナバチ、ヒメジヨオンやフランスギクにとまるヒメシジミやウラギンヒョウモンが観察できました。湿原では、ヒロシマサナエやゲンバイトンボ、ゲンジボタルも見られました。ヒロシマサナエは八幡高原で発見されたモイワサナエの亜種です。霧ヶ谷湿原でヒロシマサナエが確認されたことは、確実に湿原として回復しつつあることを示していると言えます。



クララの蜜を吸うトラマルハナバチ



ヒメシジミ(メス)



ヒロシマサナエ

(3つの昆虫の写真は観察会とは別の日に霧ヶ谷湿原とその周辺で撮影したものです。)